四国ツーリズム創造機構通信 ～2026年10月号～

西日本の広域連携DMO4者でランドオペレーターへの営業を実施

【ブランディング】

10月5日（月）と６日（火）の2日間、西日本の広域連携DMO4団体（（一社）関西観光本部、（一社）山陰インバウンド機構、（一社）せとうち観光推進機構、当機構）で、東京に所在するランドオペレーターに対して共同セールスを実施しました。当日は各DMOから2名ずつが参加し、2班に分かれて国内主要ランドオペレーター10社を訪問しました。

各団体から関西、中国及び四国エリアの観光情報や地域の観光コンテンツを紹介するとともに、訪問先との意見交換を行いました。

今回の取組は、4DMOによる連携協定（2023年5月締結）に基づくセールス・プロモーションの共同展開の一環として実施したものです。今後、大阪IRの開業や神戸空港の国際定期便就航などにより、西日本へのインバウンド需要のさらなる拡大が期待される中、欧米豪市場を中心とした海外旅行会社による旅行商品の造成及び販売拡大に向けて、ランドオペレーターの課題やニーズの把握に努めながら、長期的な関係構築を進めてまいります。

4DMOでは今後も連携を強化し、西日本、更には四国への誘客及び広域周遊の促進に取り組んでまいります。

開催日時	2026年10月５日（月）、６日（火）
実施場所	東京のランドオペレーター10社
参加者	３DMOから合計６名
機構参加者	神野副本部長、清水CMO





＜ランドオペレーターへの営業の様子＞

Setouchi Vélo協議会 総会（松山会議）に出席

【ブランディング】

10月19日（月）、愛媛県松山市で開催されたSetouchi Vélo協議会（※）総会（松山会議）に出席するとともに、併せて実施されたトライアルライドおよび記念講演に参加しました。

トライアルライドには、愛媛県知事、四国地方整備局長、四国運輸局長、四国経済連合会会長をはじめとする38名が参加し、同協議会が普及促進を図るE-bikeに乗車して、愛媛県内の推奨サイクリングルートである「重信川自転車道 水と緑の癒しのみちコース」（東温市～松山市：約17km）を走行しました。

総会では、ハンドオーバーセレモニーとして、前会長の岡山県知事から新会長の愛媛県知事へ盾の引き継ぎが行われました。また、事務局からは今期の活動実績報告と次期活動計画が提案され、2027年5月に愛媛県で開催される「Velo-city2027」でのブース出展をはじめ、瀬戸内地域一体となったサイクリングルートのPR等の取組方針が示されました。

次ページに続く

当機構では、同協議会が掲げる「瀬戸内地域やその周辺地域を、環境に配慮した、安全で快適な、世界にも認められる『サイクリングの推進エリア』にしたい」という理念のもと、引き続き「サイクリングアイランド四国」のブランド確立に向け協力してまいります。

※ 構成団体26団体、参加団体67団体の計93団体で構成。
事務局：中国地方整備局、四国地方整備局、本州四国連絡高速道路（株）

開　催　日	2026年10月19日（月）
開催場所	ANA クラウンプラザホテル松山（愛媛県松山市） ※トライアルライドは愛媛県東温市～松山市内にて実施。
機構参加者	桑村本部長



＜新会長・中村愛媛県知事のご挨拶＞



＜両県知事による盾の引継ぎ＞

「サイクリングしまなみ2026」にPRブースを出展

【ブランディング】

10月24日（土）と25日（日）の２日間、愛媛県今治市で開催された瀬戸内しまなみ海道・国際サイクリング大会「サイクリングしまなみ2026」のイベント会場にて、四国4県や当機構等で構成する「サイクリングアイランド四国推進協議会」としてブース出展し、「四国一周1,000kmサイクリング」をはじめ、四国各県の魅惑的なサイクリングコースや観光情報を来場者に広くアピールしました。

現地では、すでに四国一周を2回達成された方や、海外から参加されたサイクリング愛好家との交流もあり、サイクリングの聖地「しまなみ」や四国エリアに対する注目の高さを肌で感じる貴重な機会となりました。

引き続き、「サイクリングアイランド四国」の実現と、さらなる誘客拡大に向けて取り組んでまいります。

開　催　日	2026年10月24日（土）、25日（日）
開催場所	みなと交流センターはーばりー（愛媛県今治市）
大会出走者	5,828人
機構参加者	伊藤統括副本部長、夛田マネジャー、三好マネジャー


＜PRブースの様子＞

「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」第14回会議を開催

【ブランディング】

10月29日（木）、愛媛県内子町で、「四国『持続可能な観光』推進ネットワーク」第14回会議を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。会議では、今年度取り組んでいる事業の進捗報告を行うとともに、開催地である内子町の取組の紹介を発表いただきました。

会議後には、内子町、（一社）内子町観光協会及び内子町町並みガイドの会のご協力のもと、内子町の歴史的な町並み地域の視察を行いました。

また、会議翌日には、内子町ならではの朝の町並みを散策し、日中とは異なる町並みのを体感する、大変貴重な体験となりました。

次ページに続く

四国ツーリズム創造機構通信 ～2026年10月号～

開　催　日	2026年10月29日（木）、30日（金）
実　施　場　所	内子自治センター（愛媛県内子町）
参　加　者	ネットワーク会員20団体43名 アドバイザー（四国運輸局） ３名 オブザーバー（徳島県、香川県、愛媛県、高知県、(株)伊予銀行、(株)四国銀行、(一社)内子町観光協会）7名
機　構　参　加　者	桑村本部長、伊藤統括副本部長ほか３名


＜会議の様子＞


＜視察の様子＞


＜朝の町並み散策の様子＞

「ジーーーンと四国！しこくーるフォトコンテスト」＜秋期＞開催中！！

【ブランディング】

当機構では、現在、「ジーーーンと四国！しこくーるフォトコンテスト＜秋期＞」（～12月10日（木））を開催中です。7月１日（水）から９月30日（水）まで実施した＜夏期＞では、皆さまから1,000点を超える作品をご応募いただいております。

応募いただいた作品のうち、受賞作品をフォトブック形式にまとめ、今後の四国の観光PRツールとして活用していく予定としております。

皆さまからご応募いただいただ作品が、四国を代表する１冊となりますので、たくさんのご応募を心よりお待ちしております。

詳細については、キャンペーンページをご覧ください。





詳細については
右記二次元コードから
特設サイトをご覧ください

ご応募
はこちら

香川大学ビジネススクール公開講座「地域活性化と観光創造」のご案内

【ブランディング】

12月10（木）から１月21日（木）の毎週木曜日に、香川大学大学院地域マネジメント研究科（ビジネススクール）で、公開講座「地域活性化と観光創造」（計５回）を実施します。オンラインでの聴講（無料）も可能ですので、受講希望の方は、下記二次元コードからお申込みください。



登壇講師など
講座チラシはこちら

オンライン聴講の
お申込みはこちら

開講日時	2026年12月10日（木）、17日（木） 2027年１月７日（木）、14日（木）、21日（木）
受講場所	香川大学幸町南キャンパス　DRI棟１階E11講義室 ※オンラインの場合は、Zoom

「四国観光商談会2026」を東京会場・大阪会場で開催

【マーケティング】

10月６日(火)に大阪府大阪市、10月14日(水)に東京都港区の2会場で、「四国観光商談会2026」を開催いたしました。

大阪会場では、今年度より会場を変更するとともに、実施形式を「2部構成」に改めました。第１部では四国４県、四国旅客鉄道（株）、本州四国連絡高速道路（株）、当機構からの旬な観光情報や最新トピックスのプレゼンテーションを行い、続く第２部では、旅行会社と四国の観光事業者による個別商談会を実施しました。

東京会場は、昨年度に引き続き、「３部構成」とし、プレゼンテーション、商談会に続き、レセプションを実施しました。レセプションの冒頭では、ご来賓の木村観光庁長官、蒲生JNTO理事長よりご挨拶を頂戴しました。歓談の場では、四国４県と本州四国連絡高速道路（株）からご提供いただいた地酒やご当地ソフトドリンクをはじめ、四国自慢の食材を使用した料理を挟みながら、交流を深められました。今後は、ご参加いただいた旅行会社様等へのアフターフォローを行い、旅行商品の造成や四国への誘客促進に、引き続き取り組んでまいります。

実施日/実施場所	大阪会場：2026年10月６日（火）/オービックホール（大阪府大阪市） 東京会場：2026年10月14日（水）/第一ホテル東京（東京都港区）
来賓等 ※東京会場のみ	来　賓：国土交通省　観光庁　長官　木村　典央 (独)国際観光振興機構　理事長　蒲生 篤実 乾　杯：(株)ＪＴＢ代表取締役社長執行役員　青海　友 中締め：(株)日本旅行　常務取締役　ツーリズム事業本部長　三好 一弘
参加者	大阪会場：旅行会社・運輸会社25社72名 四国側参加者69社121名 東京会場：旅行会社・運輸会社42社198名 四国側参加者84社146名
機構参加者	半井代表理事、桑村本部長ほか11名※両会場合算


プレゼンテーション(大阪)


商談会（大阪）


プレゼンテーション（東京）


商談会（東京）


挨拶：木村観光庁長官


挨拶：蒲生国際観光振興機構理事長


レセプション（東京）


地酒・ソフトドリンクブース

プレミアムインバウンド向けモニターツアー（今治・しまなみ海道エリア）に参加

【マーケティング】

（株）瀬戸内しまなみリーディングが実施する「プレミアムインバウンド向けモニターツアー（今治・しまなみ海道エリア）」に参加しました。本モニターツアーは観光庁の令和７年度補正予算「観光需要分散のための地域観光資源のコンテンツ化促進事業」を活用し、欧米豪をはじめとする高付加価値旅行者（プレミアムインバウンド）の誘客促進を目的に実施されたものです。

１泊２日のモニターツアーでは、１日目の今治港から大三島までのクルーズ（定期船利用）から始まり、E-bikeで島内をサイクリングしながら、ミュージアム巡りや大山祇神社の参拝を通じ、豊かな瀬戸内の自然と文化体験を満喫しました。夜にはナイトタイムコンテンツとして、市内での「スナック・Bar文化体験」を行うなど、地域ならではのローカルな魅力に触れました。２日目は第57番札所・栄福寺での遍路体験や工房織座でのオープンファクトリー見学などを経て、鈍川温泉にて意見交換会を行いました。

開催日	第１グループ：2026年10月８日（木）、９日（金） 第２グループ：2026年10月27日（火）、28日（水）
訪問場所	伊藤豊雄建築ミュージアム、ところミュージアム、大山祇神社、亀老山展望台、スナック・りらっくま、Bar・ANCHOR、第57番札所・栄福寺、工房織座、玉川ダム公園、鈍川温泉ほか ※定期船によるクルーズ、E-bikeでのサイクリング体験含む
実施者	株式会社瀬戸内しまなみリーディング
参加者	旅行会社、航空会社、DMO等観光関係者
機構参加者	清水CMO、藤井マネジャー、長山マネジャー、寒原マネジャー



＜E-bikeでのサイクリング体験の様子＞



＜第57番札所栄福寺視察の様子＞

2027年度観光素材説明会を開催

【マーケティング】

10月13日（火）、大阪府大阪市で開催された「2027年度観光素材説明会」に参加しました。本説明会は関西圏の旅行会社を対象に、西日本エリアの観光地やJRを利用した旅行商品の造成とその販売促進につなげるため、JR西日本、JR四国、北陸三県誘客促進連携協議会、DISCOVER WEST連携協議会、京都・大阪・神戸観光推進協議会、当機構の主催で開催しているものです。

当機構からは、四国４県とJR四国に関する観光素材について説明いたしました。

その後の懇親会では、西日本各地の食材を取り入れた食事が提供され、旅行会社の皆さまとの活発な意見交換が行われました。

開 催 日 時	2026年10月13日（火）15:30～19:00
開 催 場 所	ホテルグランヴィア大阪（大阪府大阪市）
機構参加者	伊藤統括副本部長



「まだまだ知らない！冬の四国の魅力セミナー」を実施

【マーケティング】

10月１日（木）、四国運輸局主催の「まだまだ知らない！冬の四国の魅力セミナー」に参加しました。

本セミナーは、海外向け観光プロモーションを担う日本政府観光局（JNTO）職員を対象に、訪日プロモーションの目的地として四国を選んでいただくことを目的に実施しています。四国運輸局・JR四国・当機構の連携のもと、昨年11月に続き２回目の開催となりました。

今回は「冬」をテーマに、「冬だからこそ楽しめる」の視点で周遊の魅力を発信いたしました。

・当機構： 冬限定のアクティビティや絶景、旬のグルメ情報を紹介
・JR四国： 冬の車窓風景や沿線のおすすめスポットを紹介
・四国運輸局： 上記を組み合わせた周遊モデルコースを提案

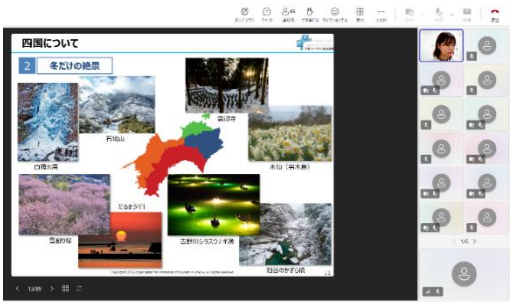
セミナー後のアンケートでは、「「冬の四国」をなぜ地域側が推すのか、どのように素晴らしいのかがよく伝わる内容だった」「次回も特定のテーマ縛りで聞きたい」などといったご意見をいただき、次回開催を希望する声も多く寄せられました。

当機構では引き続き、四国運輸局やJNTOとの連携を強化し、四国へのさらなる送客・誘客促進に取り組んでまいります。



<セミナーのチラシ>

開 催 日 時	2026年10月１日（木）16:00～17:00 ※オンライン開催
参 加 者	JNTO職員 75名（本部、海外事務所含む）
発 表 者	四国運輸局、JR四国、当機構(三好マネジャー)



<機構発表の様子>

米国トラベルアドバイザー向けウェビナー「The Kizuna MasterClass」に登壇

【マーケティング】

10月２日（金）、JNTOニューヨーク事務所主催のウェビナー「The Kizuna MasterClass」第３回に登壇しました。

本ウェビナーは、米国の高付加価値層向けトラベルアドバイザーを対象に、全４回のシリーズを通して日本の７地域を紹介するもので、今回は「夏」をテーマに開催されました。当機構からは、富裕層・高付加価値旅行者のニーズが高い「直島」をはじめとする現代アート、四国遍路などのアドベンチャートラベル、四国にある現存天守や城泊、宿泊施設情報などを紹介いたしました。

参加者からは四国遍路に関する具体的な質問が寄せられるなど、四国の観光コンテンツに対する高い関心が伺えました。

引き続き、JNTO海外事務所との連携を強化し、欧米豪市場からの四国への誘客促進に努めてまいります。



＜機構発表の様子＞

開　催　日　時	2026年10月１日（木）6:00～7:00（日本時間）　※オンライン開催 （米国東海岸17:00～18:00、西海岸13:00～14:00）
参　加　者	米国トラベルアドバイザー　56名
発　表　者	土居マネジャー

タイ旅行博「第18回FITフェア（Visit Japan FIT Fair＃18）」へ出展および現地旅行会社セールスの実施（JR周遊促進事業）

【マーケティング】

10月16日（金）から18日（日）の3日間、タイのバンコク市内で開催された訪日旅行フェア「第18回FITフェア（Visit Japan FIT Fair＃18）」に、四国４県・JR四国のご協力のもと、「SHIKOKU」ブースを出展しました。ブースでは、訪日旅行を検討する来場者へSNSフォローキャンペーンやアンケートを実施し、四国の認知度向上や誘客促進を目指した四国のプロモーションを実施しました。今後も現地での反響やアンケート結果を活かし、各関係機関の皆様と連携しながら、訪日リピーター層の獲得に向けた継続的な情報発信に取り組んでまいります。

続く、19日（月）と20日（火）には、現地旅行会社を訪問し、市場の動向や各社のニーズ、四国観光の課題についてヒアリングを行うとともに、情報提供や今後の連携強化を行いました。タイ人のニーズに合わせたコンテンツ提案、モデルコースの提案など、引き続き関係を強化してまいります。

【第18回FITフェア概要】

開　催　日	2026年10月16日（金）～18日（日）
開催場所	サイアム・パラゴン（タイ・バンコク）
出展団体	徳島県、香川県、高松市、愛媛県観光物産協会、JR四国 ※愛媛県、高知県からはパンフレットやノベルティ等の提供支援
機構参加者	清水CMO、三好マネジャー


＜FITフェアの様子＞

【セールス概要】

実　施　日	2026年10月19日（月）、20日（火）
訪　問　先	現地旅行会社８社
機構参加者	清水CMO、三好マネジャー

	訪問先旅行会社
1	Compax World/ Asahi Travel Service
2	Doso Travel
3	Quality Express
4	SKT Holiday
5	Siam Orchard Group Co., Ltd.
6	Big World Holiday
7	Season Holidays
8	Maritime Travel Service

＜訪問先旅行会社＞



＜セールスの様子＞

シンガポールのニュースメディア「CNA Lifestyle」に四国記事が掲載されました

【マーケティング】

JNTOシンガポール事務所の事業により、シンガポールのニュースメディア「CNA Lifestyle」にて、四国（香川県・愛媛県）の記事が掲載されました。制作にあたり、当機構も地域コンテンツ等の助言を行っております。

記事では、30～50代の中間アッパー層をターゲットに、スロートラベルやウェルネス、Affordable Luxury（すべてを最高級にするのではなく、ユニークな体験や特別な宿泊など「価値を感じる部分」にメリハリをつけて予算を最適化する旅行スタイルのこと）をテーマとした四国の旅が描かれております。

香川県小豆島のオリーブ公園やオリーブ牛、三豊市の浦島ビレッジや粟島のウミホタル、愛媛県内子町の和蝋燭作り体験やギルティング和紙体験、大洲市の臥龍山荘などの街歩きツアー、宇和島市の鯛めしや木屋旅館など、地域ならではのユニークな宿泊施設や食・体験コンテンツが紹介されております。

ぜひ下記URLまたはQRコードからご確認ください。



メディア名：CNA Lifestyle

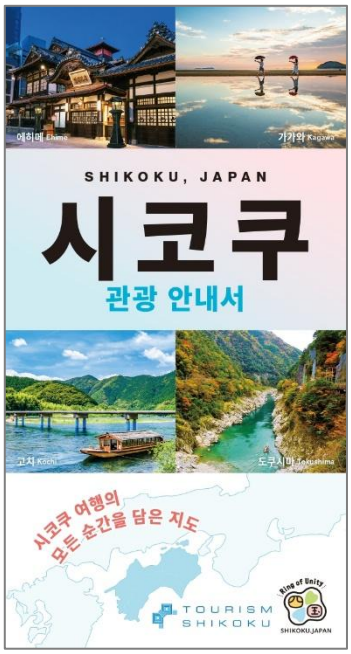
記事URL：https://cnalifestyle.channelnewsasia.com/advertorial/why-japans-smallest-main-island-worth-slowing-down-589861

韓国語版･四国観光ガイドマップをリニューアルしました！

【マーケティング】

この度、当機構が発行する韓国語版の四国観光ガイドマップを新たに作成しました。

新しいマップは、韓国市場への訴求力を高めるため、テーマ別のフォトジェニックな景観写真や人気の高いゴルフ場情報を中心に掲載しています。定番の観光地にとどまらず、四国ならではの豊かな自然や文化を周遊して楽しめる一冊となっております。



ガイドマップの
送付希望はこちら

ガイドマップの
ダウンロードはこちら



「四国JALパック会　首都圏研修」に参加

【その他】

10月15日（木）、東京都渋谷区で開催された「四国JALパック　首都圏研修」に会員の皆様と参加しました。当研修会は、当機構の四国観光商談会に合わせて毎年実施されております。

今回は第１部が日本航空（株）国産SAF推進タスクフォース部長　喜多敦様から「持続可能な航空燃料（SAF）について」、第２部が関東JALパック会会長、東急ホテル＆リゾーツ（株）専務執行役員　宮島芳明様から「訪日旅行の現在と展望について」といったテーマで講話をいただきました。講話後、昼食をしながらの意見交換会を行いました。



<喜多部長様講話>

開 催 日 時	2026年10月15日（木）11:00~14:00
開 催 場 所	SHIBUYA STREAM HOTEL（東京都渋谷区）
参　加　者	四国JALパック会会員約20名
機構参加者	桑村本部長、松本チームマネジャー


<宮島専務執行役員様講話>

小豆島観光商談会2026に参加

【その他】

10月30日（金）、大阪府大阪市で（一社）小豆島観光協会主催の「小豆島観光商談会」に参加しました。本商談会は、関西圏における観光施策等のPRと2027年度上期以降の旅行商品の造成を促進することを目的としています。

30社約100名の旅行・運輸会社様がお越しになり、観光説明会では、よしもと新喜劇の島川耕一さん、未知やすえさんが登場され、小豆島の魅力をアピールされました。

懇親会では、岡野土庄町長、大江小豆島町長も参加され、旅行会社の皆様と活発な意見交換が行われました。

開 催 日 時	2026年10月30日（金）
開 催 場 所	モントレグラスミア大阪（大阪府大阪市）
機構参加者	桑村本部長



<(一社)小豆島観光協会　堀川会長>



<(一社)小豆島観光協会
観光戦略部会 有本部会長>

ルアンパバーン視察①　寺院で見た認定証

【清水CMOからの情報】

世界遺産の町として知られるラオスのルアンパバーンを視察しました。訪問のきっかけは世界遺産でしたが、町を代表する寺院ワット・シェントーンの入口で、「Green Destinations」の認定証（写真左）を見つけました。そこで、今月は、現地で見たこと、調べて分かったことを所見も含めて公式資料を中心にご報告します。

【ワット・シェントーンで見た認定証】



＜「Green Destinations」の認定証＞


＜ ワット・シェントーン①＞


＜ ワット・シェントーン②＞

認定証の内容：

「シルバー・アワードを授与する。今後24か月間、Green Destinationsの旗とマークを掲示できる」
発行は2025年6月23日、有効期限は2027年6月23日。

Green Destinationsとは

持続可能な観光地を国際的な基準で評価する団体。
アワードはブロンズ～プラチナの段階表彰で、独立した監査を受けて決まり、期限あり。

【ルアンパバーンのGreen Destinationsでの歩み】

出典：Green Destinations、Vientiane Times（2025年3月7日／2025年10月30日）

時期	内容
2024年	Top 100 Stories（持続可能な観光の取り組み事例100選）に選出
2025年3月	ITB Berlinで、Story Award「Destination Management（観光地経営）」部門 3位
2025年10月	シルバーアワード（2025～2027年） ラオスで初めて。100を超える小指標のデータ提出と現地監査を経て決定
今後	ゴールドを目指す

【ルアンパバーン県が提出したストーリーから分かったこと】

出典：Green Destinations「Top 100 Stories 2024：Luang Prabang City（PDF）」

項目	内容
課題	1995年の世界遺産登録後、観光が急速に広がり、伝統家屋がホテル・ゲストハウス・飲食店に転用されたり、現代的な建物に建て替えられた。資材の高騰や、修復できる職人の不足も重なった。
取り組み	登録の翌年に遺産管理委員会を設置（県は副知事が委員長、住民も参加）。 保全開発計画を定め（2003年に国が承認）、修繕を助ける基金と職人研修を設けた。 規則に反する建物は取り壊した例も多い。
成果	住宅・公共建築443棟、宗教建築168棟、池183か所を保全し、29年間世界遺産の価値を守ってきた。

観光が暮らしを変えていく課題に対し、地域に合ったルールを29年間守り続けてきたことが評価された。

次ページに続く

ルアンパバーン視察②　訪問先

【清水CMOからの情報】

【訪問先】

※「ストーリーとのつながり」のうち（推測）と記した部分は、Green Destinationsが明示した評価ではなく、私の推測です。

①ワット・シェントーン



現地で見たこと　町を代表する寺院。
入口にGreen Destinationsの認定証を掲示。
ストーリーとのつながり　ストーリーで保全の対象とされる宗教建築168棟の一つです。来訪者が最も集まる場所で、評価を目に見える形で示している。

②プーシーの丘



現地で見たこと　片側に町並みと人々の暮らし、反対側にメコン川の景色が広がります。JICAのロゴ入りの多言語QR案内板もあり。
ストーリーとのつながり　保全開発計画で守られてきた町並み全体を見渡せる場所。取り組みの成果を感じられる。

③ナイトマーケット（17～22時ごろ）





現地で見たこと　押し売りはなく、民族柄の布やカバンが並び、多くの観光客で賑わう。
ストーリーとのつながり　観光局によると約250の手工芸品の出店者が並び、少数民族の手作り品を販売。
夜の買い物の場での観光客の消費が作り手の収入につながっている。
（推測）ストーリーでは伝統芸術民族学センターが工芸品の販売の場になっており、同じ方向の取り組みと考えられる。

④Ock Pop Tok（機織り工房・カフェ）



現地で見たこと　工房・店・カフェが一体となった施設です。機織りの実演を見学可能。
ストーリーとのつながり　2000年創業。14県・15民族の500人以上の職人と協働し、公正な報酬を重視しています（Mekong Tourism）。
（推測）ストーリーの職人研修や官民連携と同じく、伝統技術を守り、住民に利益を還元する仕組み。

⑤托鉢（朝5時半頃）



現地で見たこと　観光客は、マナーに配慮しながら静かに見守っていた。
ストーリーとのつながり　（推測）托鉢はストーリーには出てきませんが、住民の暮らしと信仰が観光と共存している例だと考えられる。
UNESCOは「僧侶の朝の托鉢」を町の価値を支える要素に挙げている。
宿泊とのつながり　早朝の行事のため、見学するには前日から町に泊まる必要があります。朝のコンテンツがあることが、滞在や宿泊につながっている。

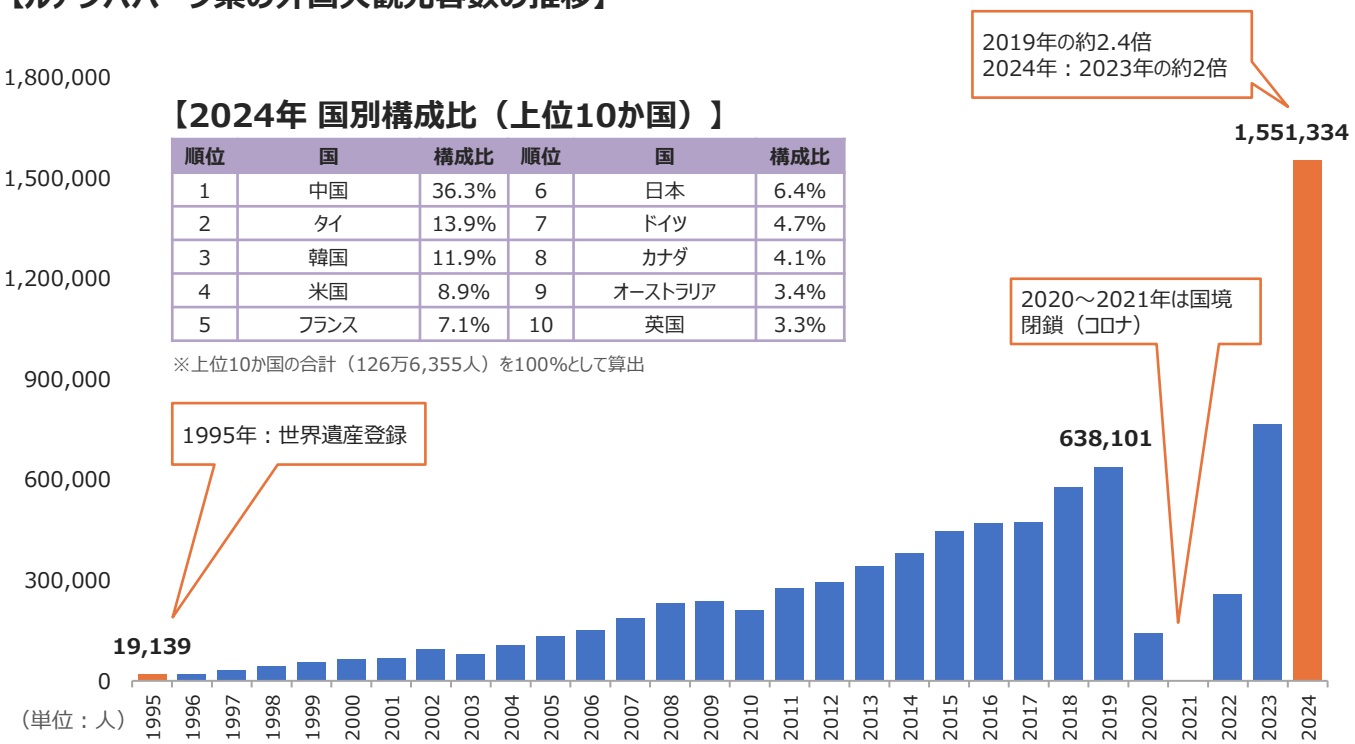
寺院とプーシーの丘では、ストーリーの成果を、
夜市・工房・托鉢では、暮らしと観光が結びつく様子を確認できた。

次ページに続く

ルアンパバーン視察③　数字で見る変化

【清水CMOからの情報】

【ルアンパバーン県の外国人観光客数の推移】



【2024年 国別構成比（上位10か国）】

順位	国	構成比	順位	国	構成比
1	中国	36.3%	6	日本	6.4%
2	タイ	13.9%	7	ドイツ	4.7%
3	韓国	11.9%	8	カナダ	4.1%
4	米国	8.9%	9	オーストラリア	3.4%
5	フランス	7.1%	10	英国	3.3%

※上位10か国の合計（126万6,355人）を100%として算出

出典：ラオス情報文化観光省（旧国家観光庁）「Statistical Report on Tourism in Laos」各年版（1997年版～2024年版）。
1999～2003年は県観光局の数値（Global Urban Development誌 2008年）、2015年は県情報文化観光局の数値（アジア開発銀行 2023年）で、国の統計とは差がある（国の統計では2000年が16万5,222人）。
国別構成比は県情報文化観光局の発表（Vientiane Times 2025年1月14日）から算出。

世界遺産登録の1995年から2024年までに、外国人観光客は約81倍に増加。

【2024年の急増の理由】

・2024年の外国人観光客は1,551,334人で、前年の約2倍。ラオス政府の統計報告は、アジア太平洋からの増加（全国で前年比55%増）の理由を、ラオス中国鉄道（2021年12月開通、2023年4月から国際旅客列車）と「Visit Laos Year 2024」のキャンペーンだと説明している（統計報告）。
・欧州からの増加（同24%増）はキャンペーンが理由とされ、米国（同37%増）は理由の記載なし。
・上位は中国・タイ・韓国などの近隣諸国が占め、日本のインバウンドと似た構造。米国・フランス・ドイツ・カナダ・オーストラリア・英国と欧米豪からも幅広く訪れており、遠方の旅行者にも選ばれる観光地になっている。

【世界遺産登録の直後は欧米が中心】

・1997年の国別構成比は、フランス22.2%、米国14.4%、ドイツ12.6%、日本8.8%で、中国は0.3%（1997年版統計報告）。
・欧米の人数も増え続けている、近隣アジアがそれ以上に増えたため、割合が逆転している。
・統計報告は、欧米からの旅行者を滞在が長く消費額の大きい層と位置づけている。

**・2024年の急増は、「ラオス中国鉄道とVisit Laos Year 2024キャンペーン」による。
近隣アジアからの増加が主な要因。
・欧米豪からも幅広く訪れており、遠方の旅行者にも選ばれ続けている。**

次ページに続く

ルアンパバーン視察④　視察で得た学びと四国への示唆　【清水CMOからの情報】

【視察で得た学びと、四国での可能性】

現地で見て、帰国後に調べて分かったことを、四国の観光地経営に置き換えて整理しました。あくまでも私の推測としてご参考にしてください。

学び	ルアンパバーンで確認したこと	四国での可能性
地域に合ったルールを守り続ける	保全開発計画を29年間運用し、規則に反する建物は取り壊すこともあった。ストーリーの教訓は「地域の実情に合ったルールを、一貫して守らせること」	町並みや景観のルールを、地域で合意して続けることが、国際的な評価につながる可能性がある
住民が担い手になる	遺産管理委員会に住民が参加。 教訓は「住民の理解と参加が欠かせない」	観光地経営の場に住民が加わることで、守る取り組みが続きやすくなると考えられる
朝のコンテンツで宿泊	早朝の托鉢を見るには、前日から町に泊まる必要がある	朝にしか見られない地域の営みは、宿泊を喚起する
夜の場で消費	ナイトマーケットで地域の手仕事が販売され、購入が作り手の生計を支えている	夜の観光（ナイトタイムエコノミー）は、滞在の延長と消費額の拡大の両方につながる
手仕事を観光客に届ける	Ock Pop Tokや伝統芸術民族学センターが、工芸を見せ、売る場になっている	地域の手仕事を体験・購入できる場づくりは、住民への還元につながる

【受賞が「ゴール」ではない】

・UNESCO（世界遺産委員会）は、世界遺産の管理部門の職員が30名から14名に減り、修繕を支える基金も止まって142棟が未修復であると指摘し（2024年）、収容力の調査にもとづく観光管理計画を求めている（2025年）。

・（感想）Green Destinationsの評価とは別に、静かな自然の中にあるクアンシーの滝を訪れた際には、観光客の急増もあり、オーバーツーリズムの一つでもある騒音が気になる場面もありました。
Green Destinationsを受賞＝「完成された観光地」ではないと感じました。
地域の観光地経営を考えるうえで、騒音をはじめとするオーバーツーリズムにつながる課題を未然に防ぐ視点が四国でも必要だと感じました。

【四国とGreen Destinations】

TOP100選：徳島県三好市（2023年）、香川県丸亀市（2023年、2025年）、香川県三豊市（2025年）、香川県小豆島町（2021年、2022年）、愛媛県大洲市（2022年、2023年）、高知県黒潮町（2025年）

アワード：小豆島（2024年シルバー）、大洲市（2024年シルバー）、丸亀市（2026年シルバー）

出典：当機構プレスリリース（2023年／2025年）、香川県「観光注目情報 2026年vol.2」、トラベルボイス、Green Destinations、観光経済新聞

・ルアンパバーンの評価は、地域に合ったルールを守り続けたこと。
・朝と夜の過ごし方や伝統文化の掘り起こしは、四国の地域でも活かせる可能性がある。

当機構は、四国「持続可能な観光」推進ネットワークを設立しており、四国内の持続可能な観光を促進してまいります。
また、2027年3月16～18日、ドイツ・ベルリンのB to B旅行見本市「ITB Berlin 2027」に、JNTOビジット・ジャパンブース内で出展します。ルアンパバーンも受賞したStory Awardの発表の場でもあるITBで、欧米の旅行会社に四国の魅力を発信してまいります。

四国ツーリズム創造機構通信 ～2026年10月号～

代表理事の主な動静

10月２日（金）定例会議・推進会議（当機構の会議）

14日（水）四国観光商談会（東京会場）

22日（木）定例会議・推進会議（当機構の会議）

（一社）四国ツーリズム創造機構
事業推進本部
岸本、神野

TEL：087-813-0434
FAX：087-813-0312

SHIKOKUTOURISM

後援・協賛等

事業名	主催	期間	備考（公式サイト等）
第18作 「新 鶴姫伝説～鎧に白い花を～」	坊っちゃん劇場	2025年４月29日(火) ～2027年３月(予定)	https://www.botchan.co.jp/production.html
四国コンテンツ映像フェスタ2026	四国総合通信局、四国情報通信懇談会	2026年４月24日(金) ～12月(予定)	https://www.shikoku-ictcon.jp/scvf/
周遊スタンプラリー「四国巡りんく」	本州四国連絡高速道路株式会社	2026年５月25日(月) ～2027年１月31日(日)	参考(2025年度公式サイト)：https://www.love-setouchi.jp/megulink2025/
第７回 SB Student Ambassador 四国ブロック大会	SB Student Ambassador 四国ブロック大会　事務局	2026年６月12日(金) ～11月７日(土)	https://www.sbsa27.com/

11月以降の主な予定表

区分	11月	12月	１月	２月	３月
マーケティング（国内）	ANA誘遊四国キャンペーン（９月～３月） 秋のしあわせ、まるっと四国巡りフェア（11月21日～23日/京都）				
マーケティング（国際）	四国インバウンド商談会（11月10日/高松市）	サイクリングツアーガイド講習（12月16日～18日/高松）		Japan Roadshow（２月１日/シドニー）	ITBベルリン（３月16日～18日/ドイツ）
ブランディング	第２回意見交換会（11月9日/徳島市）	四国「持続可能な観光」先進地視察（11月25日～26日/高山市） 香川大学ビジネススクール公開講座（12月10日、17日、１月７日、14日、21日/高松市） SJ60 Musubi Singapore-Japan Festival 2026（11月28日～29日/シンガポール） Greater WEST JAPAN推進会議（11月27日/米子市）	第３回意見交換会（１月18日/松山市）	四国「持続可能な観光」推進ネットワーク第15回会議（３月３日/土佐市）	TAIPEI CYCLE2026（３月25日～28日/台湾）